

## 山上の説教

マタイによる福音書五章一〜12節

心の貧しい人々は、幸いである

天の国はその人たちのものである。(3)

「心が貧しい」と言えば、通常は「心が狭い」とか「愛がない」という意味になります。ここはそういう意味ではありません。神の前に自分が何も持たない者、物乞いのような者であることを知っている人のことです。それは徹底した貧しさであって、神の豊かさに対する、助けていただかなければ生きていけないと自覚する貧しさです。人はある程度の貧しさは認めても、神に全面的により頼むほどの貧しさに徹することはなかなかできないものです。私たちは心のどこかで「神に頼らなくても、自分の力で何とかやっていける」と思っているのではないのでしょうか。自分の力やわざに頼るのではなく、神の恵みによってのみ生きようとする人を「幸いである」と主イエスは言われます。ご自身に寄り頼む者たちを決して見捨てることのない主が、その人を力強く支えてくださるからです。